

SOCIOECONOMIC STUDY ON THE BURDEN AND PREVENTION OF LEPTOSPIROSIS FOR URBAN AND RURAL HEALTH AND SAFETY POLICY

ジョセフ, モラレス, アルビオル

<https://hdl.handle.net/2324/1654957>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（農学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2,3）



氏 名	ジョセフ モラレス アルビオル Joseph Morales Arbiol			
論 文 名	SOCIOECONOMIC STUDY ON THE BURDEN AND PREVENTION OF LEPTOSPIROSIS FOR URBAN AND RURAL HEALTH AND SAFETY POLICY (都市と農村の健康・安全政策に向けたレプトスピラ症の負担と予防に関する社会経済的研究)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	矢部 光保
	副 査	九州大学	教授	伊東 正一
	副 査	九州大学	教授	福田 晋
	副 査	九州大学	准教授	高橋 義文

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

レプトスピラ感染症は、フィリピンにおいても感染事例が増加してきており、重大な社会問題となっている。しかしながら、レプトスピラ感染症の増加にもかかわらず、これがもたらす経済的負担の大きさ、人々の認知度、予防方法に関する知識は依然として限られている。そこで本研究においては、レプトスピラ感染症のもたらす経済的負担の推計、予防のための環境浄化活動の価値、患者がより価値をおく予防ワクチンの特性、農業就労者のレプトスピラ感染症に対する意識と予防行動、経済的リスク軽減のための保険に対する受容可能性について分析を行ったものである。

まず、レプトスピラ感染症の経済的負担は、治療費・交通費・休職による経済的損失・介護費用等を計算して、平均的家計所得の約 10%であると推計された。また、予防のための環境浄化活動の価値は、回答者がその活動のために参加してもよいと思う時間の価値を基準にして評価するならば 1.45 億ドルと推計された。これはマニラ大都市圏 GDP の 1.13% に相当しており、このような活動の価値の大きさが示された。

次に、レプトスピラ感染症の予防ワクチンに対する支払意思額は、その特性に応じて 31 ドルから 66 ドルと推計され、これは日本における平均的ワクチンの小売価格の 21 ドルから 24 ドルよりも高い。これより、フィリピンにおいてもレプトスピラ予防ワクチンの市場が十分に成り立つ可能性のあることが示唆された。

さらに、農業就労者のレプトスピラ感染症に対する知識・態度・行動に関する分析からは、それらのスコアが都市住民のそれよりも低く、農業部門における健康管理と安全性に対する啓蒙活動の必要性が示唆された。最後に、この感染症に対するマイクロ保険の支払意思額を潜在クラス分析によって求めたところ、約 4.12 ドルから 6.25 ドルと評価された。これは一般的な社会保険と同等の金額であり、これよりレプトスピラ感染症に対するマイクロ保険の市場が十分に成り立つことが示された。

以上、本研究は、最新の分析手法を用いて、フィリピンの都市スラム街住民と農業就労者を対象に、レプトスピラ感染症に対する経済的負担、これに対処するための予防ワクチンの開発、都市部清掃活動の重要性とその導入可能性、レプトスピラ感染症に対する農業就労者への啓蒙活動の必要性、マイクロ保険導入の可能性について重要な方向性を与えるものであり、学術的価値の高い研究と言える。よって、本研究は博士（農学）の学位に値すると認める。